

## 令和4年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時： 令和4年7月1日（金）

2 会場： 三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

[委員] 田中 満公子 委員（大阪教育大学連合教職大学院教授／本協議会 会長）

今西 邦夫 委員（本校同窓会長／本協議会 副会長）

井上 博史 委員（大阪公立大学教授）

河野 泰之 委員（京都大学副学長）

田中 孝子 委員（本校 PTA 会長）

坂部 弘重 委員（堺市立三国丘中学校長）は校務により欠席

※ 学識経験者は着任順に表記しています

[教職員] 藤井 光正（校長）、福本 美紀（教頭）、中川 和明（事務部長）

田中 和代（首席）、吉田 憲司（首席）

宮根 隆（1学年主任）、大塚 雅之（2学年主任）、長井 一也（3学年主任）

中村 駿太（進路指導主事）、尾崎 勇魚（SSH 主担）、田中 洋平（SGH 主担）

古木 康大（本年度新規採用教諭）、犬童 基紀（本年度新規採用教諭）

4 協議事項及び報告者

(1) 令和4年度学校経営計画について（校長）

(2) 各学年の状況について（各学年主任）

(3) SSH の取組について（SSH 主担）

(4) SGH の取組について（SGH 主担）

(5) 令和4年度大学入試における進学実績について（進路指導主事）

(6) 教科書選定について（教頭）

5 提言〈委員の意見等〉

○ SGH や SSH、部活動などで活躍できる生徒がいることが三国丘高校の強みであり、そんな生徒が卒業後にどのようなキャリアに進んだのかという情報を受験生（中学生）にアピールすることが今後の三国丘高校にとって重要である。

○ SSH の取組を進める中で実験装置等のハード面で困ったときは近隣の大学に相談するのも一つの方法だと思う。力を貸してくれる大学は多いはず。

○ コロナ禍中にあっても教員が三国丘高校生のロールモデルを積極的に語れば、生徒もそれを意識して頑張るのではないかと思う。

## 6 協議の概要

### (1) 令和4年度学校経営計画について

【委員】大学では評価が予算に直結するが、府立学校の学校経営計画も評価が予算に影響するのか。

【学校】学校経営計画の評価が教育庁から配当される予算額に影響することはない。また、学校経営計画以外にもGLHS10校には詳細な目標設定があり成果がホームページで公表されているが、これも予算に影響することはない。

【委員】受験生（中学生）や保護者はそういった評価を参考にして受験する高校を決めているのか。

【学校】数字や文字で表せる成果だけではなく大阪府公立高校進学フェアなどの合同学校説明会におけるプレゼンテーションや個別相談、本校で実施する学校説明会で感じた生徒（三丘生）の印象などを判断の材料として総合的に決めていただいていると思っているが、数ある情報の中でも直近の大学進学実績などは強いインパクトを持って受け止められていると思う。

【委員】大阪大学合格者数日本一など優れた進路実績は積極的に周知すべきだと思うが、一方で三国丘高校にとって優秀な生徒とはどんな生徒かというスタンスはブレないようにすべきだと思うがどうか。

【学校】三国丘高校が育てたい生徒像は、単に勉強ができるだけでなく部活動や探究活動に主体的に取り組み、自分の頭で考えて行動できる生徒である。それこそが、次世代を牽引する真のグローバルリーダーだと考えている。

【委員】SGHやSSH、部活動などで活躍できる生徒がいることが三国丘高校の強みであり、彼らがその後どのようなキャリアに進んだのかという情報を受験生（中学生）や保護者にアピールすることが今後の三国丘高校にとって重要なのではないかと思う。

【委員】コロナ禍中にオンラインを活用するメリットとデメリットについてどう感じているか。

【学校】感染や濃厚接触により登校できない生徒に対して授業をオンライン配信し学習支援ができていた点は大きなメリットだと思っている。また、教員生徒間や教員同士の連絡を迅速かつ円滑に行えている点もメリットだと言える。これからもオンラインを活用した取組の質の向上をめざしたい。

### (2) 各学年の状況について

【委員】コロナ禍によって、生徒も教員も各種学校行事を経験できていない現状があると思うが、三国丘高校の文化の継承について工夫していることはあるか。

【学校】探究活動に関して言えば、留学生との交流する機会が減ったことは大きな痛手だと感じている。また、SSHの全国大会がなくなり完成度の高い3年生の探究活動を1年生や2年生に見せられなかったのも痛手だと思っている。文化祭についても心配したが、生徒が自分たちでアイデアを出し合い創造的な活動を進めることのできたので教員はみんな感心した。

【委員】文理学科に統一されることにより変わったことはあるか。

【学校】進学実績は明らかに向上した。また、普通科があった頃は普通科の生徒が文理学科の生徒に対して学力面で負い目を感じている節があったが文理学科に統一されることによりそういう弊害は消えた。

### (3) スーパーサイエンススクールの今年度の取組について

【委員】SSHの予算はどんなことに使われているのか。

【学校】主に、実験に必要な備品の購入、生徒や教員が海外研修に行くための費用、技術者・研究職等による講習や助言などに対する謝礼（人件費）として支出している。

【委員】SSHの活動経費はSSHの予算のみではなく参加する生徒の保護者も受益者として負担していると思うが、経済力の差が生徒間に不公平感を生じさせることはないのか。

【学校】希望する生徒が参加する活動については保護者に応分の負担をお願いすることになるが、このことはどの学校のどの行事においても同様。SSHの活動は国から予算が配当されている分保護者負担を抑えている側面もあるので、現在のところ学校としてご指摘の課題は把握していない。

【委員】実験装置等のハード面で困るようなことがあれば近隣の大学に相談するののも一つの方法。きっと力を貸してくれると思う。

#### (4) スーパーグローバルハイスクールの今年度の取組について

【委員】本校におけるSGHの取組も年月を積み重ね、その間には今年度のレルカップ（世界大会最優秀賞）をはじめ数々の輝かしい実績を残してきた。当該の卒業生がこれらの経験をその後の進路や仕事にどう生かしてきたのか興味のあるところ。先にも述べたとおり、卒業生の活躍も学校広報に活かしていくべきだと考える。

#### (5) 令和4年度大学入試における進学実績について

【委員】遠方の大学はあまり受験していない印象だが、考えられる原因としては生活費の問題が大きいのか。それとも、地元に住てほしいという保護者の意向が影響しているのか。

【学校】原因は一つではないと思うが、進路指導の方針としては5大学（東大・京大・阪大・神戸大・大阪公立大）のほか地方の旧帝大や海外の大学も選択肢に加える方向で進めている。

#### (6) 令和4年度使用教科書選定について

特に質疑なく承認

#### (7) その他

【委員】1年生の入部率が96%と多いのは、教員が何かしらの指導をした結果か。

【学校】特にそのような指導はしていないが、今年度は例年より多い。

【委員】京都大学でも新入生の入部率が高くなっている。これもコロナの影響かもしれない。

【委員】今回の協議会を通じて感じたのは、コロナ禍中であっても教員が三国丘高校生のロールモデルを積極的に語れば、生徒もそれを意識して頑張るのではないかということ。今後も大いに期待している。